

平成28年度 施策評価シート

基本目標	安心して暮らせる「すみだ」をつくる	
政策	480	地球にやさしい、環境への負荷の少ないまちとしくみをつくる
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める
施策の目標	区民、事業者、区の誰もがごみの発生を抑制し、資源のリサイクルが進んでいます。	

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
ごみ量(区収集及び持込)	t	77,000	79,487	78,497	78,278	78,184	77,585
ごみ量削減率(対21年度実績比)	%	9.6	6.7	7.9	8.1	8.2	8.9
資源回収量	t	14,000	14,201	13,906	13,499	13,861	13,524
資源化率	%	23.0	20.0	19.9	19.7	20.1	19.8

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
車両配車計画車両台数の減	台	40	36	36	36	35
人員配置計画技能系正規職員の減	人	100	94	93	91	88

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>墨田区一般廃棄物処理基本計画(平成23年度～32年度)における最終目標は、ごみ量(区収集ごみ及び持込ごみ)を77,000t、資源化率を23%以上としている。</p> <p>計画前半期を終え、区内人口が増加しているものの、ごみ量は削減傾向に推移しているが、資源化率は停滞状況にある。このため、最終目標値の達成のためには、これまで以上に対策を講じる必要がある。</p> <p>ごみの減量・資源化率の向上には、行政主体の取り組みだけでなく、区民・事業者との協働が不可欠であることから、各種事業の更なる強化及び推進が不可欠である。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>墨田区一般廃棄物処理基本計画において、目標を達成するために掲げている、ごみ減量・資源化率向上のための19課題の解決に向け、実効性のある取組を着実に実現する必要がある。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>循環型社会の形成・実現に向け、今後も更なるごみ減量と資源化率の向上に資する以下の取組の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区民・事業者への啓発指導を強化する。 ・ リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)の取組をより進められる普及活動を強化する。 ・ 多様化する区民ニーズ・ライフスタイルに即した、効率的・効果的な収集サービスを実施する。

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	資源回収事業(集積所回収)	すみだ清掃事務所	447,463	現状維持	
2	資源回収事業(集団回収支援事務)	すみだ清掃事務所	40,793	現状維持	
3	資源回収事業(拠点回収実施事務:廃乾電池)	すみだ清掃事務所	2,686	現状維持	
4	資源回収事業(廃食油回収事務)	すみだ清掃事務所	860	現状維持	
5	資源持ち去り及び不法投棄防止対策事務	すみだ清掃事務所	3,755	改善・見直し	職員による早朝パトロールの実施体制を拡充していく。
6	有料ごみ処理券管理事業	すみだ清掃事務所	16,925	現状維持	
7	ごみ減量の普及・啓発事業(クリーンキャンペーン事業)	すみだ清掃事務所	387	現状維持	
8	墨田区廃棄物減量等推進審議会運営事務	すみだ清掃事務所	216	現状維持	
9	ごみ減量の普及・啓発事業(すみだリサイクル清掃地域推進委員制度運営事務)	すみだ清掃事務所	151	現状維持	
10	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクルの普及啓発事業)	すみだ清掃事務所	1,753	改善・見直し	
11	ごみ減量の普及・啓発事業(エコストア制度推進事業)	すみだ清掃事務所	60	改善・見直し	
12	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクルリーダー派遣)	すみだ清掃事務所	6	改善・見直し	
13	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクル活動センター管理運営事務)	すみだ清掃事務所	5,757	改善・見直し	区が関与するリサイクルショップのあり方・必要性を検証し、今後の運営を改善していく。
14	古着回収事業	すみだ清掃事務所	0	改善・見直し	
15	粗大ごみ収集事業	すみだ清掃事務所	181,006	改善・見直し	転出入の増加や高齢社会の進展のもと、柔軟かつきめ細かなニーズに的確に対応するため、効率的・効果的なサービス向上等を検討し、実施していく。
16	ポイ捨て対応清掃委託	すみだ清掃事務所	13,700	現状維持	
17	使用済み小型家電回収事業	すみだ清掃事務所	0	現状維持	

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	資源回収事業(集積所回収)		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	資源回収事業費		執行実績報告書ページ	68

1 事業の概要

廃掃法、容器包装リサイクル法、墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例等。 平成12年4月、都から区へ清掃事業が移管され、区が集積所での古紙回収を実施。 平成18年10月、集積所の資源回収品目を拡充し、びん・缶・ペットボトルの回収を実施。 平成19年7月、モデル地域で食品トレー回収実施。平成20年10月から区内全域で実施。 平成22年4月、サーマルリサイクルに伴う分別変更の影響により清掃車の車両火災が多発したため、防止対策として不燃で収集したガスボンベ等の無害化(資源化)処理を実施。	事業開始年度	平成18年10月
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	区内の家庭等から排出される廃棄物のうち、資源として再利用できる物(古紙・びん・缶・ペットボトル・食品トレー)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	ごみとして捨てることなく回収し、リサイクルルートへの引き渡し	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	ごみ減量化や、埋立処分場の延命化を図るとともに資源循環型社会が実現される	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	古紙回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	3,199	3,301	3,298
活動指標 (手段に対する指標)	びん・缶回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	2,926	2,919	2,974
活動指標 (手段に対する指標)	ペットボトル回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	982	963	982
活動指標 (手段に対する指標)	食品トレー回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	30	28	29
成果指標 (目的に対する指標)	ごみ量	t	目標値	/	/	/
			実績値	55,111	55,610	56,063

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

資源の需要と供給は、わが国及び世界経済の産業動向に大きく左右されるが、この3か年においては安定的な回収ができています。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度歳出予算額	481,800	27年度歳出決算額	477,463	27年度執行率	99.2%	28年度歳出予算額	
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	資源物売払収入			収入額	66,734
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>ごみ減量とリサイクル推進のため、区民の資源物の集積所回収に対する意識が極めて高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>集積所回収が定着し、安定的な回収量を確保している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>事業統合等は困難であるが、回収品目を見直すなどの工夫の余地はあると考えられる。</p>				
(4)現状と課題	<p>更なる資源化率の向上のために、正しい分別方法の周知や排出指導を引き続き実施することが重要である。また、資源物の回収品目を増やすことについても検討の余地がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区内約9,800箇所の集積所において、週一回実施される区の行政回収は、持ち去り対策等の課題があるものの、資源物を住民側が管理する負担もなく、定期的に排出できる点において区民生活の利便に大きく資するものであり、更なる資源化率の向上にも結びつくものであるため、今後も改善・効率化しつつ行政サービス自体は現状レベルで継続する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>区民団体等が民間ベースで展開する集団回収の利用状況も踏まえつつ、より合理的かつ効果的な資源回収システムの構築を検討し続ける必要がある。また、回収品目についても、品目ごとの回収状況や、社会経済状況で求められる新たな回収品目の導入も踏まえつつ、資源化率の向上を目指した改善の検討を継続する必要がある。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	無
	要旨	無

事務事業名	資源回収事業(集団回収支援事務)		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	集団回収支援経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

・平成4年・・・都から集団回収団体支援事業が区に移管され「多層型資源回収システム推進要綱」を制定。報奨金は9円/kgの従量制。 ・平成9年10月・・・ルート維持対策のため業者支援金支給開始。雑誌を対象に5円/kgの従量制。雑誌報奨金を6円/kgに減額。 ・平成10年4月・・・全品目の報奨金を6円/kgに減額。 ・平成10年10月・・・ルート維持対策品目を古紙三品に拡大。単価を3円/kgに減額。 ・平成18年10月・・・分別回収の廃止に伴い要綱を「資源回収システム推進要綱」に改正。	事業開始年度	平成4年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか	区へ登録をした集団回収活動団体(10世帯以上、多くは町会、自治会、婦人会、子ども会、マンション管理組合等の単位)	に対して
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	報奨金の交付、物品(軍手やひも等)及び活動に要する物品の支給、並びに古紙回収事業者に対するルート維持費の交付	を実施したことで
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか	ごみの減量化とリサイクル率の向上をはかり、さらに地域コミュニティが活性化される	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	集団回収資源回収量	kg	目標値			
			実績値	6,244,827	6,540,151	6,171,269
成果指標 (目的に対する指標)	ごみ量	t	目標値			
			実績値	55,111	54,965	56,073

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

実施団体の中で、管理組合等少数団体の新規登録が増加している一方、町会や自治会、子供会での活動が減ってきており、そのことが回収量が増加しない要因となっている。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費
27年度歳出予算額	41,795	27年度歳出決算額	40,793	27年度執行率	97.6%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		49,618
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
資源回収のコスト及び地域コミュニティの形成の観点から今後も推進すべきである。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
団体ごとに資源を集めるので、分別が行き届き、質の高い資源が大量に集まる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
行政回収と比べ、回収に要する財政支出が少ない。				
(4)現状と課題	町会や子供会が事業主体となることにより、リサイクル意識の向上につながるが、区が直接回収するものでないので、回収コストがかからない等のメリットがある一方で、区民の自発的なボランティア活動として行っているため、回収場所や回収曜日が限定的であるため、資源排出側からは利便性に欠け、回収量が伸びない要因となっている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区が直接回収するものではないため、行政側の回収コストがかからないほか、町会や子ども会などの地域団体によるリサイクル意識の向上やコミュニティの醸成など副次的な効果も期待できるため、今後も改善・効率化しつつ行政サービス自体は現状レベルで継続する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	行政による資源物回収の利用状況も踏まえつつ、より合理的かつ効果的な資源回収システムの構築を検討し続ける必要がある。 また、回収品目についても、品目ごとの回収状況や、社会経済状況において求められる新たな回収品目の導入も踏まえつつ、資源化率の向上を目指した改善の検討を継続する必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	資源回収事業(拠点回収実施事務: 廃乾電池)		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	拠点回収実施経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

廃乾電池を公共施設やエコストア等の拠点で回収し、リサイクルルートに乗せる。 墨田区資源回収システム推進要綱に基づき、平成3年度よりモデル事業を実施した。	事業開始年度	平成3年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
家庭から排出される使用済みの筒型乾電池(充電式を除く)	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
拠点で回収し、金属類等の再資源化	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
化学物質の埋め立て処理をせず、環境への負荷を低減させる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	使用済み乾電池の回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	19	19	20
成果指標 (目的に対する指標)	回収拠点数	個所	目標値	/	/	/
			実績値	154	156	144
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
回収量は概ね横ばいであり、回収拠点の設置において改善の余地がある。 現状では、回収拠点は公衆浴場や理髪店・美容院等が多いが、区民からは「なかなか持って行きづらい」との声もあるため、公共施設の拠点を増やしたり、スーパー等へ協力を要請したりすることで、更なる効果が見込まれる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度 歳出予算額	3,077	27年度 歳出決算額	2,686	27年度 執行率	87.3%	28年度 歳出 予算額	2,967
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>廃乾電池収集件数は年々増加傾向にあるため、効率的収集・運搬体制を確立していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>拠点回収が定着し、安定的な回収量を確保している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>区民がより利用しやすい拠点設置を働きかける等、改善の余地がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>公衆浴場等の廃業等に基づき、回収拠点数が減少傾向にあるため、区民がより利用しやすい拠点づくりを進める必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民がより利用しやすい回収拠点を設置していくなど、その内容は改善・効率化を検討していくが行政サービス自体は継続の必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	行政による拠点回収に係る特別区の検討の動向や、家電量販店等民間事業者が行っている回収の状況等も踏まえつつ、今後の内容改善・効率化について継続して検討する必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	資源回収事業(拠点回収実施事務:廃食油)		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	拠点回収実施経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

廃食油を公共施設やエコストア等の拠点で回収し、リサイクルルートに乗せる。 墨田区資源回収システム推進要綱に基づき、平成12年度から事業を開始した。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
家庭から排出される使用済み及び不用品(一般回収)及び 保育園や学校等の給食室から排出される使用済み及び不用品(公共施設回収)						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
回収拠点で廃食油を回収し、資源としての再利用						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
廃食油が下水道に直接放流されることなく、環境への負荷が低減される						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	廃食油の回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	18	18	19
成果指標 (目的に対する指標)	回収拠点数	箇所	目標値	/	/	/
			実績値	65	64	64
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
回収量が増加しているため、さらなる区民PRにより効果が見込まれる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度 歳出予算額	885	27年度 歳出決算額	860	27年度 執行率	97.2%	28年度 歳出 予算額	885
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>廃食用油回収量は年々増加傾向にあるため、効率的収集・運搬体制を確立していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>当該事業が始まり12年を経過し、区民の意識は浸透してきているが、より区民に事業を知ってもらうために広報を行うことが必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>区民がより利用しやすい拠点設置を働きかける等、改善の余地がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>より区民に対して事業を知ってもらうために広報を行い、回収量の増加に繋げることが重要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	PR拡充等の回収維持・向上の方策を検討する必要があるが、行政サービス自体は現状維持レベルで継続していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	区民に対して、当該回収品目及び排出方法をPR拡充することで、回収量の維持・向上を目指していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	資源持ち去り及び不法投棄防止対策事務		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	資源持ち去り及び不法投棄防止対策経費		執行実績報告書ページ	69

1 事業の概要

職員独自のパトロールや資源回収業者による委託パトロールを実施する。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例・規則・要綱に基づき平成17年度よりパトロール等の取り組みを開始。 平成18年10月、条例を一部改正し、区の指定業者以外の者による収集・運搬禁止を規定。 平成22年6月、条例をさらに一部改正し、10月より罰則適用を開始。	事業開始年度	平成17年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
特定資源物持ち去り行為及び不法投棄行為					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区の指定業者以外の者による持ち去り行為の防止及び不法投棄行為の防止(防犯パトロールや回収コンテナへの警告シール貼付)					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
資源回収量の確保と区民の行政に対する信頼が確保される					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	委託パトロールによる持ち去り行為者(疑い含む)目撃件数	件	目標値	/	/	/
			実績値	116	76	52
成果指標 (目的に対する指標)	行政回収における古紙回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	3,199	3,301	3,298
成果指標 (目的に対する指標)	行政回収におけるアルミ缶回収量	t	目標値	/	/	/
			実績値	122	125	144
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
排出された資源の有価性が高まるにつれ社会的な問題となった「持ち去り」に対しては、職員及び委託業者によるパトロール、持ち去り防止用品の配布等の対策を行ってきたが、抜本的な解決には至らなかった。そこで、H22年度からは資源回収業者によるパトロール、早朝回収を開始するとともに、条例を一部改正し罰則適用を担保した。以来、27年度は住民への協力依頼の拡充、28年度からは職員パトロール体制の拡充(時間・人数)を講じ、その成果が認められるものの、現在もなお持ち去り行為根絶には至っていない。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	ごみ収集費	
27年度 歳出予算額	3,984	27年度 歳出決算額	3,755	27年度 執行率	94.3%	28年度 歳出 予算額	4,013
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
持ち去り禁止条例の実効性を確保するため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
アルミ缶の回収量が増加するなど、事業成果が挙がっている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
パトロール時間をさらに見直し・拡充するなどの検討の余地あり。				
(4)現状と課題	悪質な行為者に淘汰されていく傾向があるため、今後はこうした行為者の告発を視野に入れた効果的なパトロールを構築していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	行政回収に対する区民の信頼を確保するために、集積所からの持ち去り行為防止のための効果的な対応方法を構築する必要がある。そのため、27年度においては、持ち去り防止シールについて、抑止力において効果的な表現に改善した。 28年度は、指導啓発係によるパトロールにおいて、職員の勤務シフトを一部見直し、早朝時間帯からのパトロールを実施して拡充を図る。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成28年4月より職員による資源抜き取りパトロールを実施している。(毎日午前7時30分より4人から5人態勢で車両2台にて実施) 持ち去り行為者に対しては口頭注意等を行っており、今後は罰則の適用も視野に入れた対応を含め、条例の実効性と持ち去り予防効果を高める必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年 決算特別委員会	
	要旨	持ち去り被害額を把握しているのか	

事務事業名	有料ごみ処理券管理事業		所管課・係	すみだ清掃事務所管理係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	5819-2571
予算書名称	有料ごみ処理券管理事業費		執行実績報告書ページ	69

1 事業の概要

墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例第62条、第63条及び同規則第47条～第54条により、平成12年4月の都からの移管以降、23区共同のシステムを使用して事務処理を行っている。受益者負担の適正化を図るために、数年に一度料金を改定する。(平成20年4月改定、平成25年10月改定)次回改定は、平成29年10月を予定している。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
少量のごみ(日量50kg未満、1回あたり45Lの袋で5袋程度)を区の集積所に出す事業者及び粗大ごみを出す区民						に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
その手数料支払のための「ごみ処理券」購入に際しての利便向上(区内公募店、コンビニエンスストア等において販売)						を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
廃棄物が適正な方法で収集・処理される						状態にする。	
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	取扱所数(区内公募店、コンビニ等)		か所	目標値	220	220	200
				実績値	223	220	215
成果指標 (目的に対する指標)	事業系・粗大ごみ処理券交付件数		枚	目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000
				実績値	1,052,497	1,005,209	1,004,651
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
取扱所数については、区内公募店は小規模店舗の廃業等により減少傾向にある(平成26年度・78店舗 27年度・71店舗)コンビニエンスストアの普及により区内のほぼ全地域に取扱所があり、身近な店舗でいつでも購入できる体制となっている。ごみ処理券の交付件数は26年度と同レベルであった。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	ごみ収集費	
27年度歳出予算額	19,896	27年度歳出決算額	16,925	27年度執行率	85.1%	28年度歳出予算額	17,630
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	有料ごみ処理券料金			収入額	256,946
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		無					
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準			補助率				

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
有料ごみ処理券貼付方式に代わる適切な方法がない ・小規模な事業者の少量の事業系のごみを収集する ・区民の粗大ごみを収集する方法				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
23区共同事業であり、一体的な事業運用をしている。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
取扱所の売上金額は全体の84%をコンビニエンスストアが占めており、コンビニエンスストアが国民経済・消費生活において大きな比重を占めている現況から、事業は効率的であると考えている。				
(4)現状と課題	費用対効果の面からみて販売実績の少ない取扱所(公募店)の取扱いが課題となる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	依然としてごみ処理券への需要は多いことから、現状維持のまま存続させる必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	ごみ処理券の取扱店舗では、公募店において店主の高齢化、販売実績の減少など課題を抱える店が多く、今後の公募店のあり方について検討を要する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(クリーンキャンペーン事業)		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	クリーンキャンペーン実施経費		執行実績報告書ページ	62

1 事業の概要

関東甲信越静環境美化推進連絡協議会では、毎年5月30日を関東地方環境美化の日(ごみゼロデー)と定め、この日を中心に統一美化キャンペーンを推進している。墨田区では、昭和59年度からクリーンキャンペーンとして実施。以降、毎年実施している。	事業開始年度	昭和59年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		町会・自治会、老人クラブ、その他団体(区内事業者など)	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		区報等で事業周知し、各団体が主体となって参加し地域一斉清掃活動	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		地域力のさらなる向上によりごみ一つ落ちていないクリーンな街が形成された	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	参加団体	団体	目標値	260	260	260
			実績値	253	256	252
成果指標 (目的に対する指標)	収集ごみ量	kg	目標値	10,000	10,000	10,000
			実績値	10,140	11,170	10,540
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成27年度で32回目の実施を迎え、区内事業者の参加が増えている。町会・自治会の参加も安定的となっているため、地域全体の定例的活動として定着したところである。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	環境保全費	目	環境保全総務費	
27年度歳出予算額	463	27年度歳出決算額	387	27年度執行率	83.6%	28年度歳出予算額	1,603
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
町内清掃を地域単位で実施し、それを通じて地域のつながりを築くことで、地域のリサイクル清掃意識の向上を図り、ごみの減量に繋がることを期待している。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
既に町会・自治会や老人クラブの大多数が参加しているため、実績値は横ばいになっている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
類似事業が無いため、統合は困難である。経費については、現在の額が最低限必要な額である。なお、団体からは清掃用具の支給について要望が出ている。				
(4)現状と課題	既に町会・自治会や老人クラブの大多数の参加があるため、参加人数については横ばいの傾向にある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民に定着し、継続的に実施される事業となっているため現状レベルで継続していくが、今後は実施に併せ、ごみ減量や不法投棄防止等に係る啓発も行う等の工夫も必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	地域力を醸成する一助となるとともに全区的事業であることから事業を継続する意味合いは高い。ただし、単純に事業を実施するだけではなく、ごみ減量、適正排出、不法投棄防止等についての啓発も合わせて行い、事業実施の意味合いを高めていく必要がある。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	無
	要旨	無

事務事業名	墨田区廃棄物減量等推進審議会運営事務		所管課・係	すみだ清掃事務所計画調整係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	5608-6922
予算書名称	廃棄物減量等推進審議会運営費		執行実績報告書ページ	66

1 事業の概要

墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例及び同施行規則、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の制定に伴い、一般廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進及び廃棄物の適正な処理に関する事項を審議するため、区長の附属機関として設置されている。	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
ごみの減量(総排出量)	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区民、学識経験者、区議会議員及び区職員で構成された会議体において、ごみ減量のための計画や施策について、助言や意見交換	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
ごみ減量に向けた施策や事業に区民等の意見を反映させ、ごみ減量及び資源化の促進が図られる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	審議会の回数	回	目標値	3	2	2
			実績値	1	1	2
成果指標 (目的に対する指標)	ごみ・資源の総排出量	t	目標値	/	/	94,895
			実績値	91,777	92,045	91,080
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
会議回数は、少ないものの、ごみ・資源の総排出量実績は目標値を下回り、各種事業を取り組むうえで、審議会による助言や意見を反映できているものとする。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	清掃総務費
27年度歳出予算額	453	27年度歳出決算額	216	27年度執行率	47.7%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源	/	
	無	無	無	有		348
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称	無					
*複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>廃棄物の排出当事者(区民、事業者)から直接、現状、意見、ニーズなどを聞くことができる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>区民、事業者、学識経験者から、様々な視点からの助言や意見などを聞き、施策に反映させることができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>構成員が20人近いことから、テーマを掘り下げた議論ができないことがある。</p>				
(4)現状と課題	<p>審議会から出た様々な助言や意見を、どのように現状行っている施策等に反映させ、ごみ減量、資源化率の向上に繋げるかが課題である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	条例に則る設置会議体(附属機関)であるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>本事業は、ごみ減量に資する事業遂行には欠かせない場である。限られた開催回数・時間の中で、今後は、委員同士による討議・意見交換がこれまで以上に活発に行えるよう、テーマを絞り、分科会による会議を取り入れるなど、会議の手法や運営方法を見直していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(すみだリサイクル清掃地域推進委員制度運営事務)		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2229
予算書名称	すみだリサイクル清掃地域推進委員制度運営費		執行実績報告書ページ	66

1 事業の概要

資源循環型社会構築のために、区内各地域でのリサイクルや清掃に関する自主活動を支援していく必要がある。 そこで、リサイクルや清掃の分野において、将来にわたって活躍できるような地域に根付いたリーダーを確保するため、平成13年7月に「すみだリサイクル清掃地域推進委員設置要綱」を制定し、すみだリサイクル清掃地域推進委員制度を発足させた。 委員は2年ごとに各町会・自治会から1名を選出し委嘱している(現在は第8期)。	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
すみだリサイクル清掃地域推進委員を委嘱し、委員とリサイクル・清掃に関する情報交換や情報提供をしたり、委員に対して説明会や見学会					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
リサイクル・清掃に関する意識を高め、リサイクルの推進やごみの減量、不法投棄の防止を地域ぐるみで解決できる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	リサイクル施設見学会		回	目標値	/	/	/
				実績値	3	2	2
成果指標 (目的に対する指標)	年末不法投棄防止パトロール		日	目標値	/	/	/
				実績値	7	7	7
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
区の実施する説明会や見学会へは毎回多くの委員が参加している。また、区が依頼する年末不法投棄防止パトロールへも積極的に参加し、不法投棄されない地域づくりに貢献している。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	清掃総務費	
27年度 歳出予算額	230	27年度 歳出決算額	151	27年度 執行率	65.7%	28年度 歳出 予算額	141
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
リサイクルや清掃の意識向上を図るには、区民の協力が必要不可欠である。したがって、区民の地域ごとのリサイクル・清掃活動を区が積極的に支援していく必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
他区においてもほぼ同様の事業を実施しており、取組みの基本事項についても概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
本事業の推進によってごみの減量や不法投棄の減少が実現できれば、清掃事業全体の経費削減や効率化が期待できる。				
(4)現状と課題	推進委員のリサイクル・清掃に関する意識啓発を図るため、説明会や見学会を実施し、知識を得てもらっているが、区の清掃事業を一層理解してもらうように努力する。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	現状レベルでの継続とするが、今後は、一般廃棄物処理基本計画の目標達成のため、地域におけるごみ減量や資源化率の向上をはじめ、持ち去り対策、不法投棄防止対策の推進力として活動できるよう検討していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	清掃行政に係る本区と地域のパイプ役として活躍してもらい、地域の共助による様々な課題解決を推進するリーダーとしてのノウハウを向上させていく必要がある。 特に今後のごみ減量・資源化率向上に向けて、大きな鍵を握ると考えている可燃ごみにおける水切りの徹底、混入している雑紙の資源化について、PRの一翼を担ってもらいたいと考える。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクルの普及啓発事業)		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	リサイクルの普及・啓発経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

平成2年度の「墨田区リサイクル都市づくり懇談会答申」を受け事業開始。現在においてもリサイクル活動を通じて区民のライフスタイルの見直しを進め、区民・事業者・行政が一体となって「リサイクル都市すみだ」の構築に向けた運動を展開している。	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
ごみ減量と3Rの普及・啓発(情報誌・パンフレットの発行、環境学習の実施及びイベントでのPR活動)	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民が日常生活において、ごみ減量や3Rを心がけるとともにそれを実践している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	各種パンフレットの作成	部	目標値	-	-	41,800
			実績値	19,800	38,800	117,100
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
ごみの減量につながる普及啓発のあり方について、年代や対象ごとに必要な冊子物の作成を行っている。 具体的には、「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット(保存版)」を始め、小学生向け啓発冊子「できることからはじめよう」や「資源物・ごみの収集日カレンダー」を作成・配布することで、清掃・リサイクルに関する啓発を行っている。 また、小学4年生を対象にした環境学習も積極的に行っている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策	目	リサイクル事業費	
27年度歳出予算額	2,144	27年度歳出決算額	1,753	27年度執行率	81.8%	28年度歳出予算額	1,882
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	0
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
ごみ減量と資源化率の向上のために普及啓発は必要不可欠であり、ニーズも高い				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
年代や対象ごとに必要な冊子物の作成を行っている				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
創意工夫を凝らし冊子物の内容の吟味と在庫管理を適切に行い、経費節約に努めている				
(4)現状と課題	・対象や方法など普及啓発の効果を高めていく必要がある。 ・墨田区廃棄物減量等推進審議会や区民の声に耳を傾け、適宜、啓発内容を見直す必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	廃棄物、資源のいずれもが、区民生活の中から排出されるものであることから、適正な排出について、さらなるPR活動を展開していく必要があり、質量の両面で改善、見直し、拡充を図り、これを一般廃棄物処理基本計画の目標達成につなげていく。
今後の方向性 (見直しの視点)	人口増加傾向の中で、ごみ出しルールの周知・徹底は地道なPR活動を継続していくほかはない。技能系職員と事務系職員の連携により、新たな課題に対しては迅速に対応しながら、普及啓発事業の効果を高めていく。特に、閲覧数で上位に位置づけられる区公式ホームページの活用は、効果的であると考え。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 11

作成年月日：平成28年6月15日

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(エコストア制度推進事業)		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2229
予算書名称	エコストア制度推進費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

平成4年4月、環境に配慮している商店等エコストアとして認定することで、その利用を区民に推奨することを目的として制度開始する。同年7月に新規認定として115店舗をエコストアとして認定。以降、随時申請を受け付けている。 また、平成18年12月には継続希望調査による再認定方式を開始。以降2年ごとに更新を行っている。	事業開始年度	平成4年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
商店やサービス業等の事業者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
3R(ごみの減量や再利用、再資源化)を心がけた店舗を増やす取り組み	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民がごみの排出を抑制し、再資源化を進め、3Rに対する意識が高まった	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	エコストア登録数	同上	目標値	/	/	100
			実績値	104	92	92
成果指標 (目的に対する指標)	同上	同上	目標値	/	/	100
			実績値	104	92	92
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
事業開始時よりもエコストアに対する利点が少なくなり、加入店舗が減少している。また、認定店舗の事業者が高齢などにより閉店するケースがあることも減少の一因と思われる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費
27年度歳出予算額	69	27年度歳出決算額	60	27年度執行率	88.2%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/	
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		54
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
区内店舗を活用することにより、区民のエコ意識(マイバッグ持参・簡易包装・廃乾電池の回収等)の向上に繋がる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
店舗と客の間には、買い物とエコ意識の向上だけでなく、人と人との繋がりが生まれる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
エコに関する意識付けだけなので、経費は殆ど発生していない。(「資源物とごみの分け方・出し方」を配布しているので、それに伴う経費がかかる)				
(4)現状と課題	事業開始から20年以上が経過し、エコに対する捉え方に変化が出てきたため、認定基準やあり方について再度検討する必要がある。すみだぼいんとやいっしょにネットなど、区内の店舗に関連するほかの事業との連携を図り、業種や加入店舗数を増やしていく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	「エコロジカルな商品・サービス」自体が普遍的な状況、また、後継者難・売り上げ減少等により、個人商店が廃業等で減少する現況の中では、その存立意義の確立に苦慮している。小売店登録・更新基準の見直しを行い、区民の意識や新たなニーズに対応した制度に改善する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	乾電池等の資源回収拠点としての役割は依然として期待できるものである。また、今後は食品ロス削減を目的とした飲食店における食べきり推奨等についても検討し、事業者との連携を図りつつ、ごみ減量を推進していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクルリーダー派遣)		所管課	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	作成者(連絡先)	3613-2229
予算書名称	リサイクルの普及・啓発経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

平成10年6月1日より、区のリサイクルを地域に広め、その中心となる区民リーダーを育成し、自主的なリサイクルへと展開することを目的として、墨田区リサイクルリーダー派遣制度実施要綱に基づき事業を開始し、ものづくりを中心に講座を実施している。	事業開始年度	平成10年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
リサイクル活動に興味のある区民団体(町会・自治会、婦人会等)						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
区民団体の要請に応じて、区に登録しているリサイクルリーダーを派遣し、リサイクル手作り講座を通じて、ごみの減量と資源化率の向上の啓発						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
講座を受講した区民が新たな地域リーダーとなり、ごみの減量と資源化率の向上のために、自主的なリサイクル活動を広める						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	派遣回数	回	目標値	10	10	10
			実績値	9	9	4
成果指標 (目的に対する指標)	成人に対する参加者の割合	%	目標値	0.050	0.050	0.050
			実績値	0.050	0.040	0.020
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
リーダー登録者数は平成13年度以降から年々減少しており、平成28年度現在は22人となっている。また、派遣リーダー数についても、平成19年度以降から年々減少しており、平成27年度は12名となっている。町会・自治会の参加団体の割合が減少しているところから、今後の需要動向を調査しながら、別の手段や事業の在り方について検討する必要があると考えられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度歳出予算額	60	27年度歳出決算額	6	27年度執行率	10.0%	28年度歳出予算額	20
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称		*複数ある場合は代表的なもの					
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>環境問題やごみ問題への関心の高まりにより、一定レベルの知識・情報が社会的に共有されている状況において、現在のリーダーが提供できる知識・情報と、住民・消費者が知りたい、学びたいテーマが一致しないことが多く、リーダー派遣事業の必要性は従来よりも低下してきている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>リーダー登録者数、派遣リーダー数、参加者数ともに減少しているため。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>年間参加者数が50人弱の現状では、効率的にごみ減量への普及啓発が行われているとは評価できない。</p>				
(4)現状と課題	<p>事業実施から18年が経過し、リサイクルの輪を区内に広めるといった当初の目的は果たしてきたが、施策に直接繋がる効果が得られていない。そのため、事業の見直しが必要であるが、当事業を自治会、老人会で定例事業として利用する団体も存在する。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>リーダーが提供できる知識・情報の内容が極めて限定的であること、また派遣要請回数の減少を考えると講座の内容等の検討・改善が必要と考える。自治会や老人会で定例事業として利用する団体も存在し、参加団体の固定化がみられる。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>事業実施から18年が経過し、リサイクルの輪を区内に広めるといった当初の目的は果たしてきたが、施策に直接繋がる効果が得られているかを検証し、改善をしていく。 環境保全課で実施しているエコライフ講座への移管も視野に入れて、検討をしていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 13

作成年月日: 平成28年6月14日

事務事業名	ごみ減量の普及・啓発事業(リサイクル活動センター管理運営事務)		所管課	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	作成者(連絡先)	3613-2229
予算書名称	リサイクル活動センター管理運営費		執行実績報告書ページ	71

1 事業の概要

「すみだリサイクル活動センター運営要綱」「すみだリサイクルの会補助金交付要綱」により、平成9年1月16日開設。	事業開始年度	平成8年度
	終了予定年度	未定(経過19年)

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
「すみだリサイクルの会」	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
区民が持ち寄った古着等の不用品を預かり、販売するリサイクルショップ、乾電池や廃油の回収拠点、またリサイクルリーダーの活動拠点とリサイクルの情報拠点としての運営委託	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
区民がリユース、リサイクルの重要性や必要性を理解し、区民がごみの減量や3Rを実践できる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	来館者数	人	目標値	16,000	16,000	16,000
			実績値	15,206	14,706	14,679
成果指標 (目的に対する指標)	総売り上げ	千円	目標値	7,500	7,500	7,500
			実績値	7,155	7,228	6,974

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

民間のリサイクルショップが普及したことにより、来館者数の減少へと繋がっていると思われる。
また、3Rの一番重要である「リデュース」に対する区民の意識が高まっていることにより、ごみ自体が年々減少傾向にあるのではないかとと思われる。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度歳出予算額	6,028	27年度歳出決算額	5,757	27年度執行率	95.5%	28年度歳出予算額	4,738
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	出品手数料 200円			収入額	1,241
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		「すみだリサイクルの会」運営助成金					
27年度実績額	3,316	28年度予算額	2,000	対象	すみだリサイクルの会		
開始年度	平成9年度	根拠法令	すみだリサイクルの会補助金交付要綱				
算定基準	すみだリサイクルの会補助金交付要綱		補助率	会の運営費116,000円、講座運営費1,020,000円、ショップ運営費2,180,000円			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>当センターでは、高価なブランド品に限定せずにリユースの機会を提供できることに優位性があるものの、近年、民間のリサイクルショップでもこのようなショップが普及しつつあることから、区が関与するリサイクルショップの必要性について、検討を行っていく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>リサイクルショップの運営を検討し、改善していく必要がある。(出展数や盗難防止対策等)</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>区民の方が持ち寄った品物を代理販売しているが、売り切ることが難しいのが現状である。手数料よりも品物の売り上げが下回るケース等からは、まだなお十分に効率的な事業展開が出来ていないことは否めない。</p>				
(4)現状と課題	<p>民間リサイクルショップの増加・多様化に伴い、区が関与するリサイクルショップの在り方や必要性を検討していく必要がある。また、運営を依頼している「すみだリサイクルの会」の新規会員の加入が少なく、高齢化する現状からは、今後、運営形態について一定の見直しが必要と考える。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	利用者数、総売り上げ額の低下を見ると、運営方法等の検討・改善が必要と考え、これは運営団体への補助金支給額の適否にも関連する。
今後の方向性 (見直しの視点)	民間リサイクルショップの増加・多様化の現況において、区が関与するリサイクルショップの在り方、必要性を検証し、今後の運営を改善していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	古着回収事業		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2229
予算書名称	-		執行実績報告書ページ	-

1 事業の概要

区民に対する普及啓発活動の一環という位置づけで、平成21年度からイベントでの臨時回収として実施。平成21年度からすみだ生涯学習センターで実施。平成22年度は、みどりコミュニティセンターを追加し実施。平成23年度からすみだ環境ふれあい館を追加し実施。平成24年度は3施設の他にすみだ清掃事務所で実施。平成25年度からすみだ生涯学習センター及びみどりコミュニティセンターの2か所において実施。平成27年度はすみだ清掃事務所(本署)を復活して3か所において実施。	事業開始年度	平成22年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民						に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
古着の資源活用機会としての回収事業						を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
資源循環型社会が実現された						状態にする。
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	古着回収参加者数	人	目標値	/	/	4000
			実績値	3,766	2,904	3,450
成果指標 (目的に対する指標)	回収量	t	目標値	/	/	40
			実績値	32	26	29
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成21年度においてはじめて実施を行ったが予想を超えた反響があったため、今後もより効率的に回収が出来るうえで、区民がより参加しやすい環境づくりを進めていく。 平成27年度は、区民からの要望が多かったため、回収場所・回数を増加して実施したが、天候の不順な日もあり目標値に届かなかった。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費
27年度歳出予算額	0	27年度歳出決算額	0	27年度執行率	-	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源	/	
	無	無	無	無		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
現在でも多くの方から要望があり、来場いただいている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
多くの区民から協力が得られているため、今後は利便性の向上(回収拠点の増加等)を目指す。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
諸条件が整えば、他の資源物の行政回収(ステーション回収)との統合等が考えられる。				
(4)現状と課題	今後は利便性を高めるため、区民へ集団回収での古着回収にご協力いただくようPRし、区主導から民間へ移行していくことも検討する。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	回収に係る区民からの問い合わせも多いことから、現行のイベント型回収の形態で拡充する必要があると考え、特に衣替えの時期にあわせて実施するなど、効率的かつ効果的な回収事業を進める必要がある。
今後の方向性(見直しの視点)	平成28年度はイベント回収の開催回数を増やし、事業を実施している。今後は、区内事業者の参画の可能性及び採算性について検討していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	予算特別委員会
	要旨	回数の拡充、区内回収事業者の参画の可能性及び採算性(売却代金の区費歳入)について

事務事業名	粗大ごみ収集事業		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	粗大ごみ申告受付業務委託経費、粗大ごみの収集・運搬委託経費		執行実績報告書ページ	68

1 事業の概要

墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例に基づく事業である。昭和46年、東京都が粗大ごみの収集を開始し、平成12年4月に東京都から移管。平成18年7月に粗大ごみの日曜収集を委託し、平成20年4月からは民間業者に全面委託した。収集の受付は、(財)東京都環境整備公社が運営する「粗大ごみ受付センター」に委託している。	事業開始年度	平成20年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区内の家庭から排出される粗大ごみ					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
受付から収集・運搬等までの体制づくり					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
区民サービスが向上された					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	粗大ごみの収集件数		件	目標値	150,000	180,000	180,000
				実績値	175,607	181,224	193,221
成果指標 (目的に対する指標)	申込みから一週間以内での収集処理した割合		%	目標値	/	/	/
				実績値	85	99	95
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
申込みから収集までの期間を1週間と設定しているが、転勤・転居・大掃除などの時期的要素により達成できないこともある。粗大ごみ収集件数が年々増加する傾向にあるため、効率的な収集・運搬体制を確立していく必要がある。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	ごみ収集費	
27年度歳出予算額	181,006	27年度歳出決算額	181,006	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	192,666
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	有料粗大ごみ処理券			収入額	75,917,500
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>家庭において不要となり排出される粗大ごみは増加傾向にあり、これを適正かつ速やかに処分する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>職員の削減につながるとともに、19自治体共同で委託運営する粗大ごみ受付センターにより、電話受付は午後7時まで、インターネットは24時間受付と多様な区民ライフスタイルに対応できるようになっている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>23区で概ね同一歩調をとっており、粗大ごみ排出者からは、その品目・大きさにより300円から2,500円の処理手数料を徴収している。</p>				
(4)現状と課題	<p>粗大ごみが年々増加傾向にあるため、受付から収集までの期間短縮化を常に摸索する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>需要の増大、特に高齢者等自宅からの廃家具等持ち運びに係る需要に応えるためのチーム編成を行った(28年度～)。運び出しまでの待ち日数短縮・適正化のためには受託事業者の効率的運営を基本としたサービス体制の構築が求められるため協議・検討しサービス改善を図る。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>転出入等社会移動の増加及び高齢化社会の進行とともに、当該事業においては柔軟かつきめ細かなニーズが増大している。この課題に的確に対応していくため、効率的かつ効果的にサービスを向上させるための方法を検討し、委託事業者を指導するほか、場合によっては車両台数の見直しも含めて検討し、申込みから一週間以内に収集を可能とする必要がある。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	決算特別委員会	
	要旨	粗大ごみの受付から収集までの期間短縮化	

作成年月日：平成28年6月7日

事務事業名	ポイ捨て対応清掃委託		所管課・係	すみだ清掃事務所啓発指導係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	リサイクルの普及・啓発経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

東京スカイツリーの開業にあたり、事業開始。最近でも周辺地域のごみの散乱やタバコのポイ捨て等が皆無ではない状況にあるため、引き続き東京スカイツリー近辺の地域において、ごみのポイ捨て等の注意喚起等を行っている。	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
東京スカイツリー周辺区域を訪れる観光客等		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
もてなし隊が徒歩等で指定された区域内を回り、落ちていた廃棄物の回収		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
道路や集積所周辺からポイ捨てされた廃棄物(ごみ)が無くなり、まちの美化が推進され、ごみをポイ捨てしづらい		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	作業人数(延べ数)	人	目標値	/	/	2,300
			実績値	3,257	2,633	2,685
成果指標 (目的に対する指標)	作業日	日	目標値	/	/	366
			実績値	362	364	366
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
周辺区域の美化清掃に加え、ポイ捨て防止のPR、ハンギングバスケットへの水やり及び観光客へのガイド等をおこない、おもてなしの心を持ってまちの美化に取り組んでいる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度歳出予算額	13,700	27年度歳出決算額	13,700	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	10,207
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
スカイツリー周辺の来街者数の推移の把握、東武鉄道グループとの役割調整の整理が必要と考える				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
取り組みの基本事項については、概ね適切である				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
清掃地域の削減及びもてなし隊の人員縮小にともない、経費の圧縮に努めている				
(4)現状と課題	来街者数の推移と東武鉄道グループとの役割調整を整理すること及び北斎美術館の開設やオリンピックの開催が控えていることから、それらの事業実施について検証する必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区の観光施策を環境行政の側面から推進していることから実施の意義があるが、28年度からは必要人員を美化の現況に併せて適正化(縮小)し、当面の間は現状レベルで継続する。
今後の方向性 (見直しの視点)	北斎美術館の開設やオリンピックの開催等に伴う新たな課題にも適宜対応することができるようそれらに対し必要に応じて事業実施について検証を行い、効率的かつ効果的な事業の進め方を検討する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	使用済み小型家電回収事業		所管課・係	すみだ清掃事務所作業係
施策	483	ごみの排出を抑制し、再資源化を進める	連絡先	3613-2228
予算書名称	拠点回収実施経費		執行実績報告書ページ	70

1 事業の概要

平成25年に施行された小型家電リサイクル法に基づき同年11月より事業を開始した。 区内13箇所に回収ボックスを設置し、携帯電話をはじめとした12品目の使用済み小型家電製品を拠点回収し、専門業者に売却している。	事業開始年度	平成25年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
家庭から排出される使用済みの小型家電製品	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区内の公共施設に設置されている回収ボックスにより拠点回収し、専門業者に売却	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
その中に含まれる貴重な資源(レアメタル等)を抽出・有効活用する、循環型社会の構築に資する	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	回収量	kg	目標値	/	/	/
			実績値	1,490	1,638	1,770
成果指標 (目的に対する指標)	回収拠点数	箇所	目標値	/	/	/
			実績値	12	13	13
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
区民が使用済み小型家電製品を排出しやすいよう、拠点の拡充に努める必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	資源環境費	項	廃棄物対策費	目	リサイクル事業費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	-	28年度 歳出 予算額	
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無	/	0	
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	資源物売払収入			収入額	62,513
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準			補助率				

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>金、銀、レアメタル等の希少金属のリサイクル率が向上し、循環型社会の構築に資するとともに、ごみの減量化にもつながる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>平成26年度から本格実施ということもあり、国、東京都及び他の自治体も含めた今後の動向を注視し、必要な施策を講じていく必要がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>区内13箇所に設置されている回収ボックスからの回収は、通常業務の合間をぬって作業員が行っており、新たな経費を発生させることなく効率的に運用している。</p>				
(4)現状と課題	<p>回収拠点数を増やすことが回収量の増加につながると考えられるが、個人情報を含むものも排出されるため、管理上の問題から拠点選びは慎重に行う必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>機器に保管された個人情報の保護、盗難や、電池に起因する火災の防止等の課題を踏まえつつ、回収量の増加を目指して業務内容細部は改善する必要があるが、行政サービス自体は現状維持で継続する。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>小型家電のリサイクルについては、身近な家電製品を通し、希少金属の国内再利用の意義等も学ぶことができる事業であるため、単に回収量を増やすだけではなく、区民に対し、リサイクルの意義をわかりやすく啓発するための事業としても継続して取り組む必要がある。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	